

空の安全・安心を！闘う労組の解体阻止！整理解雇4要件を守れ！

京都のつばさ 第27号 2014.6.26

日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議・発行

京都市中京区壬生仙念町 30-2 ラポール 5F 京都総評気付Tel075-801-2308



稲盛和夫名誉会長は JAL165 名の解雇撤回を！
稲盛イスマは世界の空を危険なものに！



私たちは 2010 年大晦日に日本航空に解雇されたパイロットと客室乗務員 142 名です。不当な解雇は撤回せよ！と裁判で闘っています。ご支援よろしく申し上げます。

We are 142 crew members, pilots and flight attendants of Japan Airlines, who were dismissed on New Year's Eve 3 years ago. We brought this case to court in order to reverse this unfair dismissal.

(We were dismissed due to age discrimination and sick-leave record in the past.)

Your kind understanding and support would be greatly appreciated. Thank you.

우리들은 2010년 12월 31일, 일본항공사에서 해고당한 파일럿과 객실승무원 142명입니다. 부당한 해고에 대한 철학을 요청하는 재판을 걸고 투쟁하고 있습니다. 여러분께, 많은 지원을 부탁드립니다.

「JAL の解雇はみな裁判所が決めたこと」 京セラ株主総会で稲盛和夫名誉会長が答弁

「政府に頼まれ、義侠心でやったこと。おにぎり齧り頑張った！！」

2014.6.26 京都市伏見区

20年ぶりの京セラ株主総会だった。

かつては山科の手狭な本社の二階だか三階で、それでも空席がたくさんありせいぜい 100~200 名くらいの参加で、総会屋と思しき声のでかい掛け声要員・拍手要員がいた。それが今回はどこの会社もそうらしいが、そういううさんくさいのは一掃され、年金生活者とおぼしき方々が 8~9 割で、伏見区の京セラ本社百メータービルの 20 階のホールは満席となり、3~400 名くらいの参加だったろうか。

六月二十六日、午前十時に予定通り、京セラ株式会社の株主総会は山口悟郎代表取締役社長の司会進行・報告・提案で開会された。

私は、「報告事項での質問」ではグレードが低いだらうと思い、そこでは四人の株主の技術的・事務的な質問と応答（経営陣への友好的な態度と内容ばかり）がなされた。次によろやく「審議事項」にはいったが、「剰余金処分案での株の配当額決定」の一点のみ。それで株主総会は終了してしまう。そこで私は、拳手をし「会社事業計画・方針への質問と意見」を二点にわたって述べた。

<稲村の発言>

ひとつには、京セラから複数役員を派遣していて、稲盛和夫名誉会長が当時会長をし、今も名誉会長をしている JAL、日本航空の 2010 年大晦日に行われたベテランパイロットと客室乗務員 165 名の解雇・首切り問題である。稲盛名誉会長はこの再建で「経営の神様」と言われ、東京八重洲のブックセンターと言う日本一大きな本屋でも入り口から稲盛名誉会長の本が並んでいる。

今、JALでは「京セラフィロソフィー」ならぬ「**JAL フィロソフィー**」がパイロットに配られ、二十万円のジェット燃料費を浮かすため、台風の雲を突っ切ったり、「利益なくして安全なし」と稲盛和夫氏に心酔していると言われる植木社長は「安全などと言うことは、京セラのように内部留保金が一兆円を越してから言え」などいう、深刻な事態となりJALの安全が危惧される事態が続いている。

この6月5日にもパイロット原告団の高裁判決の日にJALでシステム障害が発生した。第二の御巣鷹山事故など起こったら、京セラも直接・間接に大変な被害を蒙るし、それ以前に人道上あってはならない。

そのためにもこの解雇問題の早期解決が京セラ事業のためにも必要だと思うが見解を示してほしい。

二つには、**原子力発電所の問題**。太陽光をはじめとする自然再生エネルギー事業展開の必要性、必然性を広げるためにも、脱原発・反原発の市民運動など社会的運動を与件として利用するだけでなく、社の事業として原発の危険性を広く株主や社員はじめ社の内外で啓蒙・啓発する事業を展開すべきだ。

<山口社長の返答>

- 1、ここは京セラの株主総会であって、JALの株主総会ではない。また、解雇問題は管財人が決めたことだ。
- 2、原発問題は国の施策だ。

☆ここで、稲盛和夫名誉会長が登壇し、JAL解雇問題で答弁。

- 1、JALの解雇は裁判所が決めたことで、私が決めたことではない。再建に当たって必要なことをすべて裁判所が決めてやった。
- 2、安全無視などして航空会社の運営ができるはずがない。そんなことをやったら会社がもたない。
- 3、こういう株主総会でも誹謗中傷されているが、私は政府に頼まれて、世のため人のため、義侠心でやったこと。おにぎりを食べながらがんばった。

※以上だが、次の発言者が、「さっき、社長は報告事項で『あとひとりで発言打ち切り』などと言ったが、たった年一回きりの株主との出会いの場で何でそんなことを言うのか?!」と発言してくれ、圧倒的な経営陣賛成者の総会の会場で、数名が拍手をし、山口社長も顔色を変えて困っていた姿が印象的だった。

※※終了後、会場を出てロビーでコーヒーを飲みながら、年配の参加者と東側の景色を眺めて、「稲盛さんの自宅を知ってますか?」と聞いてみたらご存知で、ちょうど稲盛邸、とその上があの豊臣秀吉の伏見城と東側に一直線で一望できるようになっていた。

「あの人はお金持ちだからもっといい家別に持ってるやろけど」とも。

帰りの駅までの送りのバスで、お隣に着席された年配の女性は、「大阪から来たけど、立食パーティもなくなってねー。こんな(胡椒入れ)もの何ぼあってもしょうがないから(総会記念品)いらんのやけど。消耗品が一番いいんや。アンケートにも書いたんだけどな・・・」と。

★JR福知山線の尼崎での脱線事故の前に国鉄分割民営化で安全が危惧されるという意見への反論として、「民間会社が事故など起こしたらたいへんだからかえって安全に気をつけるので大丈夫だ」と嘯いた有名なJR西日本の責任者がいたが、稲盛答弁でそれを思い出した。杞憂であってほしい。

(JAL闘争の勝利をめざす京都共闘会議・事務局次長・稲村守)